

〈NGO・外務省定期協議会 議題案／質問状記入シート〉

1. **議題案名**：SDGs実施における地域のNPO/NGOとの連携について

2. **議題の背景**：

昨年の伊勢志摩サミット以降、各地域のNGOでもSDGsの国内実施の重要性が次第に認知されつつある。そうしたなか、昨年12月22日に日本政府のSDGs実施指針が公表された。その実施指針（本文）では、マルチステークホルダーとの連携の項目で、NPO／NGOとの連携を第一に掲げ、次のように記述されている。

…今後、同アジェンダの実施においても、「誰一人取り残さない」未来を目指すビジョンの実現を目指す上で、脆弱な立場に、ある人々との協働、国際的・地域的ネットワークを活かした問題提起や政策提言等において、NPO／NGOが果たす役割は極めて大きい。政府として、NPO・NGOや更には幅広い地域住民、民間組織や地縁型コミュニティ組織もSDGsの重要なパートナーと位置づけ、効果的な連携を一層推進していく。（「実施方針」p.7.）

同文書のなかで、NPO／NGOを単なる援助や支援の実施組織としてではなく、問題提起や政策提言の主体として位置づけたこと、さらに都市部の組織のみならず地域住民の視点も重視している点を高く評価し、地域のNPO／NGOとのSDGs達成に向けた連携に大きな期待を寄せたい。この視点は、実施のための主要原則である ①普遍性 ②包摂性 ③参画型 ④統合性 ⑤透明性と説明責任 などにも直接つながるものと考ええる。

3. **議題に関わる問題点（議題に上げたい理由）**：

しかし上記の記述にも関わらず、同文書に添付された付表「SDGsを達成するための具体的施策」には、必ずしも地域のNPO・NGOの問題提起や政策提言を反映するための具体的施策が確認できない。また各地域の中間支援組織や現場型のNGOにおいても、いまだに十分にSDGsの視点を周知できているとは言えない。今後、より具体的なアジェンダ実現に向けて、どのような連携の実施可能性があるのか、地域の視点から協議したい。

4. **外務省への事前質問（論点を詰めるために事前に確認しておきたい事実関係など）**：

1. 2030アジェンダの実施、モニタリング、フォローアップ、レビューを行うSDGs円卓会議（実施指針 本文p.7）には、地域のNPO・NGOの知見はどのように反映されるのか？

2. 同じく、事項に応じて関係するステークホルダーとの意見交換は、地域ではどのように実施されるのか？すでに環境省の取組み事例が挙げられているが、外務省の取組み方針を確認したい。

5. 議題に関わる論点（定期協議会の場で主張したいことや、外務省に確認しておきたいと現段階で考える点）：

以下についてご回答をお願いいたします。

- (ア) SDGsは、国際的アジェンダであると同時に国内特に各地域での達成が重要である点で、MDGsとは大きな違いがある。2030年の達成に向けては、この点の周知がいっそう必要と思われるが、具体的には、外務省としてどのように地域での認知の拡大・深化を進めていく予定か？
- (イ) SDGsの地域での周知にあたって、地域のNGOや中間支援組織が実施している、各種の啓発事業・開発教育事業との連携が重要な媒体となりうる。例えば、本協議会の開催地である福岡では、倶楽部FUNNやNGOカレッジなどが定例的に行われている。今後、SDGsへの理解促進や実現に向けた地域のNGO・中間支援組織の取り組みを外務省として支援していくことは可能か？
- (ウ) 前述の円卓会議に向けて、地域からの問題提起や政策提言を取り込んでいくことが重要である。各地域での説明会や公聴会、あるいはパブリック・コメント、さらには地域からの円卓会議へのオブザーバー参加は可能か？
- (エ) 既存のスキームとしては、特に民間援助連携室の所管事業としてNGO相談員制度がある。この相談員制度は各地域に設定され、2回／年の相談員会議では全国的な情報共有のネットワークが築かれている。今後、この相談員の受託団体からの提案に基づき、SDGsの周知や経験共有の取り組みなどを支援することは可能か？
- (オ) その他、地域のNPO・NGOとの連携に向けた具体的施策について、検討中のものがあればご教示いただきたい。

*以上、便宜上、NGO福岡ネットワーク／ODA政策協議会コーディネーターの高橋より提案するが、当日は福岡地域のNGOからも関連した提案や質疑を行いたい。どうぞご検討ください。

- 氏名：本田正之・原田君子・高橋良輔
- 役職：事務局スタッフ・専務理事・理事
- 所属団体：（特活）NGO福岡ネットワーク